

カーボンニュートラル推進室の取組

第2回カーボンニュートラル共創シンポジウム

東海国立大学機構が参加する、東海・信州 国立大学連携プラットフォーム (C²-FRONTS) は、一般社団法人中部経済連合会との共同主催により、「第2回カーボンニュートラル共創シンポジウム ～脱炭素を加速する為に、今何が必要か?～」を、2024年7月9日に名古屋大学東山キャンパスES総合館ESホールで開催しました。

C²-FRONTS参加大学関係者や中部経済連合会



挨拶する松尾C²-FRONTS代表
(東海国立大学機構長)

会員企業関係者らを中心に165名が来場した他、オンラインで492名が参加し、第1部では松尾清一C²-FRONTS代表(東海国立大学機構長)及び水野明久中部経済連合会会長の主催者

挨拶の後、みずほフィナンシャルグループ牛窪恭彦執行役グループCSuOによる「脱炭素社会の実現に向けて～ともに挑み、ともに実る～」をテーマに、カーボンニュートラルを取り巻く潮流や中部地域の重要性と企業の取組事例、カーボンニュートラルに向けた産学官金の取組等について基調講演が行われ「中部地方は、脱炭素の聖地になり得る」と強調されました。

第2部では「C²-FRONTSが提案するカーボンニュートラルへのチャレンジ～技術革新で、新たな連携で～」をテーマに、C²-FRONTS参加大学研究者、東レ株式会社、中部経済産業局の関係者による各パネラーの取組事例紹介の後、パネルディスカッションが行われ、モデレーターを務めた名古屋大学未来社会創造機構の則永行庸教授から「カーボンニュートラル研究で終わるか、世界で使ってもらえるか、今が正念場だ」としたうえで、「今日の議論を踏まえて、C²-FRONTSとして何かアクション



ンができないかを考えたい」と意気込みを語られました。

第3部では、同年5月に名古屋大学内にオープンしたばかりのオープンイノベーションを推進する産学融合拠点「TOIC(Tokai Open Innovation Complex) 名古屋サイト」の施設見学も行われました。



挨拶する水野明久中部経済連合会会長

第2回カーボンニュートラル共創シンポジウム
～脱炭素を加速する為に、今何が必要か?～

中部地方は、豊かな自然に恵まれかつ世界有数の産業集積地でもあり、カーボンニュートラル社会実現に対する我が国の縮図とも書えます。一社)中部経済連合会と東海・信州 国立大学連携プラットフォーム(C²-FRONTS)の主催で、「第2回カーボンニュートラル共創シンポジウム」を開催します。カーボンニュートラルに関するグローバルな状況を捉えつつ、当地域で何をどのように進めていくべきか、意見・情報交換の場を提供します。

【日程】
2024. 7. 9 [火]14:00～17:00

【会場】
名古屋大学東山キャンパス
ES総合館ESホール
[オンライン併用(zoom+ウェブ)]

【申し込み】
対象：カーボンニュートラルにご関心のある企業、自治体、大学等の関係者
受付フォームからお申し込みください。
<https://forms.gle/rGVPMMjM1Myeoz>

【締め切り】
2024. 7. 4 [木]※先着順
定員：会場参加200名・zoom500名

【お問い合わせ】
東海国立大学機構 カーボンニュートラル推進室
E-mail: net-zero@mirai.nagoya-u.ac.jp

【プログラム】
開会 司会：小林 信介 岐阜大学大学院工学研究科 教授
第1部 14:00～14:40
1. 主催者挨拶 松尾 清一 C²-FRONTS 代表
水野 明久 中部経済連合会 会長
2. 基調講演
『脱炭素社会の実現に向けて～ともに挑み、ともに実る～』
牛窪 恭彦 みずほフィナンシャルグループ執行役グループCSuO
第2部 14:50～15:30
3. パネルディスカッション
『C²-FRONTSが提案するカーボンニュートラルへのチャレンジ～技術革新で、新たな連携で～』
モデレーター 行廣 名古屋大学未来社会創造機構 教授
パネラー(司会) 昭浩 豊田技術科学大学 理事、副学長
金子 聡 三重大学 副学長・大学院立命館大学 教授
水谷 洋一 静岡大学 フロイデ研究所 教授
高島 純 名古屋大学大学院工学研究科 助教
長谷川 大寛 中部経済産業局 産業システム部一課課長
野中 利幸 東レ株式会社 経営企画室 常任理事
牛窪 恭彦 (基調講演者)
4. 閉会挨拶 佐野 幸弘 東海国立大学機構 CSR推進室長 教授
第3部 16:40～17:00
5. TOIC(Tokai Open Innovation Complex)施設見学
17:10～18:30 ポスターセッション・情報交換会
会場：豊田講堂Aトリウム

シンポジウム終了後には会場を豊田講堂アトリウムに移し、ポスターセッション・情報交換会が行われ、研究シーズポスターの前では担当教員と企業関係者による活発な情報交換が行われました。

C²-FRONTSカーボンニュートラル タスクフォースの取組

C²-FRONTSのもとに9つのタスクフォースが設置され、その中でカーボンニュートラルタスクフォースでは、東海国立大学機構をはじめ信州大学、静岡大学、名古屋工業大学、三重大学、岐阜大学、名古屋大学の6大学に、オブザーバーとして豊田工業高等専門学校が参加し、これまでに2回のタスクフォース連絡会が開催されました。

連絡会では各大学の取組状況等の情報共有や、今後の連携可能な取組などの検討が行われました。また、C²-FRONTSと中部経済連合会共催によるカーボンニュートラル共創シンポジウムの次回開催に向けてテーマ・企画を検討するためのカーボン

ニュートラル共創シンポジウム準備委員会を立ち上げて、検討を開始しました。

また、各大学キャンパスのゼロカーボン化を目指すため、各大学の状況や課題、施設関係の要求や方策などを共有することとしました。加えて、キャンパスゼロカーボンワーキングを立ち上げるとともに、脱炭素関連の教育コンテンツの開発や共有を目的とした人材育成ワーキングもそれぞれ各大学から委員を推薦いただき立ち上げることにしました。



パネルディスカッションの様子

東海・信州地域の持続的発展に向けて連携する枠組

東海・信州 国立大学等連携プラットフォーム(C²-FRONTS)

地域全体の持続的な発展に貢献しつつ、大学群としての国際競争力を高めることができるよう、東海・信州の8国立大学法人9大学および6国立高等専門学校が連携し、さまざまな課題や社会からの要請に柔軟に対応できるようプラットフォームを構築しています。

連携プラットフォームがひらく可能性

国立大学のミッションは、持続可能社会の実現のために、地域や人類課題の解決に貢献することです。今後も東海・信州地域が繁栄を続けていくためには、大学がこの地域の魅力を活かしつつ、多様な課題の解決のために地域を牽引していく必要があります。

C²-FRONTSは、各大学が強みや特色を発揮し、地域全体でまとまって連携することが重要と考えます。産業界・自治体・教育界でゆるやかにつながりながら、研究・産業の連携、教育・学生交流面での連携、国際交流・留学生の受け入れなどでの連携、大学運営に関する共通基盤の整備などを中心に情報交換と討議を行い、諸課題の解決と地域全体の人材・資産・資金の好循環を目指しています。

▶ 東海・信州 国立大学等連携プラットフォーム
(C²-FRONTS)

[https://www.thers.ac.jp/
news/2024/06/202406-c-front.html](https://www.thers.ac.jp/news/2024/06/202406-c-front.html)



▶ カーボンニュートラル推進室

[https://www.thers.ac.jp/about/org/carbon_neutrality/
carbon_neutrality.html](https://www.thers.ac.jp/about/org/carbon_neutrality/carbon_neutrality.html)

